



今月はエルサ・ベスコフばかりです！

少しずつ春が近づいてきましたね。今月のお薦めは春の色使いが、画面に広がる**エルサ・ベスコフ**の絵本のご紹介です。パステル調の色彩と可愛い表情に特徴のある作家です。

『ペレのあたらしいふく』 おのでらゆりこ：訳 福音館書店

ペレは、小さくなった洋服の代わりに新しい服を作ってもらうことにします。色々な人のお手伝いをして、手に入れた青い服はとても立派なものでしたよ。

『おひさまのたまご』 石井登志子：訳 徳間書店

妖精が森を探検していると、丸くて大きな橙色のものが落ちていました。どこから落ちてきたのかと空を見上げると、雲の間に隙間が見えます。妖精は、おひさまが卵を落としたのだと思いました。妖精は大急ぎで、森の仲間におひさまの卵のことを知らせました。愉快的仲間たちが集まってきました……。さて、おひさまの卵って？

『もりのこびとたち』 おおつかゆうぞう：訳 福音館書店

可愛い森の小人たちの一日や一年が、どんな風に過ごしているのかを描いています。ベスコフの描く妖精、小人や人物は、とても可愛くてファンも多いのも、納得できる一冊です。赤いキノコを見つけて、よく見たら、足が生えていたりして……。

『みどりおばさん、ちゃいろおばさん、むらさきおばさん』

ひしきあきらこ：訳 福音館書店

三人のおばさんとペッテル、ロッタという子どもたちが出会った一冊です。シリーズの第1作目。おばさんたちの名前はちゃんとあるのですが、おばさんたちの特徴を表したネーミングですよ。

『クローカ博士の発明』 小野寺百合子：訳 復刊ドットコム

短編が集められた作品です。挿絵が可愛いので、一つ、一つの作品を絵本にしてもらえると良いなあ～って思ってしまうのは、私だけでしょうか？